

平成 24 年度文系チャレンジ講座が開講されました

今年度も本学『チャレンジ講座』が開講されました。遠隔配信受講参加校は、大分雄城台・大分鶴崎・大分商業・安心院(あじむ)・中津南・日田の 6 校です。本学に来学して受講する参加校は、高田・国東・森・大分南・大分豊府・大分工業・別府青山・臼杵・佐伯豊南・三重総合の 10 校です。

さて、第 1 回の講座は、本学経済学部松尾純廣教授が、「現代社会と企業の変化」をテーマに、平成 24 年 5 月 16 日、本学経済学部棟 203 号教室で行われました。遠隔配信で受講した高校生は安心院・日田・大分商業・大分雄城台の 4 校(118 名)と来学した大分南高校(6 名)を合わせて、124 名が受講しました。

講座では、「現代社会と企業の変化」について、マイクロソフト社やアップル社などの IT 産業の取組から考えよとするものでした。そして、ビジネスと企業、「経営学」という学問、企業とは何か、21 世紀社会とビジネスとの関係等から現代社会を紐解こうしました。松尾教授は、マイクロソフト社やアップル社等の企業と家電・自動車産業との違いを生徒にとって身近なデジタルカメラや携帯電話の変遷について事例を交えて説明がありました。

また、ビジネスが「造る」から「創る」に変化しており、重厚長大産業から IT 産業へと移行しています。特にアジアや南アメリカの企業の躍進等、ものすごい勢いで成長・変化していることも学習しました。世界の他の企業が持っていない技術力・革新性・知識創造性のある企業が、これから躍進していくのではないかと説明されました。

今回の講座は、将来、企業に身を置くことが予想される生徒にとって、企業とは何かを考える良い機会になり身近な商品からビジネスを考えていくきっかけになりました。

受講後のアンケート調査では、「総合的に判断して良かった」(92% : 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ)、「授業に意欲的に取り組んだ」(87%)、「大学の先生は真剣に取り組んでいた」(95%)、「授業内容はわかりやすかった」(79%)との高い評価結果がでました。遠隔配信については、「音声は良く聞こえた」(64%)、「映像はよく見えた」(74%)という結果がでています。音量やスライド画面の工夫など改善していく箇所も明らかになりました。

受講生の具体的な声として、「他校の生徒と受講でき新鮮だった」「『経営学』に対して興味が出た」「時代の変化を見極めることが大事だ」「内容は少し難しいところがあったが、大学の授業を体験でき大学を身近に感じる事ができた」など多くの感想をいただきました。受講後、高校生から多くの質問が出され、高校生の関心の高さに驚かされました。

